

# 学生の口腔衛生に関連した生活習慣と意識調査

— 歯科疾患実態調査（平成28年）との比較 —

Survey of relationship with student's lifestyle and their consciousness  
concerning the oral hygiene

— Comparison with Survey of Dental Diseases (2016) —

小竹 瑞穂

(Mizuho KOTAKE)

**キーワード**：歯科疾患実態調査、歯みがきの習慣、フッ化物応用の経験

**Key Words**：Survey of Dental Diseases, tooth brushing habits,  
fluoride treatment

## I. 緒言

「歯科疾患実態調査」は、日本の歯科保健状況を把握し、歯科口腔保健の推進に関する基本的事項および「21世紀における第2次国民健康づくり運動（健康日本21（第二次）」<sup>1)</sup>において設定した目標の評価等、今後の歯科保健医療対策を推進するための基礎資料を得ることを目的に実施されている。

昭和32年（1957年）に第1回調査が開始され、以後6年ごとに行われてきたが、平成28年（2016年）調査からは調査期間が5年ごとに変更された。これは平成24年（2012年）に策定された「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」の中間評価<sup>2)</sup>に合わせ、調査周期を5年ごとに変更したものである。<sup>3)</sup>

「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>の調査対象は、毎年実施されている「国民健康・栄養調査」と同様で、設定された地区から抽出した150地区内の満1歳以上の世帯員（有効回答数は6,278名）である。（※熊本地震の影響により、熊本県の全域を除く）平成28年（2016年）の被調査者数は6,278名（男2,868名、女3,410名）であり、口腔診査受診者は3,820名（男1,667名、女2,153名）、質問紙回答のみの者は2,458名（男1,201名、女1,257名）であった。

本調査では、歯科とかわりを持つ進路を選択した学生の生活習慣や口腔衛生に対する意識は、「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>の同年代の調査結果と比較したときに、意識や行動に違いがあるのではないかと考え検証を行った。

## Ⅱ. 対象および方法

### 1. 対 象

M大学短期大学部歯科衛生学科に在籍する、平成31年（2019年）に入学した2年生26名と、令和2年（2020年）に入学した1年生44名の合計70名の女子学生を調査の対象とした。

### 2. 方 法

「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>の結果と、歯科衛生学科に通学する学生に対して行った調査結果との差異を考察する。質問項目は、「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>に準じた内容と歯科保健行動を調査する内容とした。今回は口腔内診査を行わず、質問紙のみの調査とした。2020年度前期は授業がすべて遠隔で行われたため、1年生に対してはGoogle classroomの質問フォームを利用し、回答期間を約4週間に設定して調査を実施した。2年生に対しては質問紙を配布し、記入後に調査票を回収する方法で実施した。

アンケートの回答は1年生44名のうち40名、2年生26名のうち25名の合計65名から得られ、回答率は92.9%であった。

### 3. 調査内容

「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>における主な調査項目は、1) 性別 2) 生年月日 3) 歯や口の状態 4) 歯をみがく頻度 5) 歯や口の清掃状況 6) フッ化物応用の経験の有無 7) 顎関節の異常 8) 歯の状況 9) 補綴の状況 10) 歯肉の状況 11) 歯列・咬合の状況である。これらのうち今回比較する項目として、「歯をみがく頻度」「歯や口の状態（口腔診査を行っていないため本人の自覚のあるもの）」「歯や口の清掃状況」「フッ化物応用の経験の有無」を選び調査した。さらに歯科保健に対する行動や意識を調査する項目を独自に作成して実施した。

### 4. 倫理的配慮

質問調査に先立ち、本調査は学生の口腔保健行動と口腔保健に対する認識を明かにすることを目的とした調査であることを口頭で説明し、質問紙にも記載した。また、学籍番号や氏名など、個人を特定する情報は収集せず（1年生においてはメールアドレスの情報は収集しない）、無記名で実施すること、調査内容が成績に反映される等の不利益を被ることがないこと、参加協力は自由意思によるもので、参加しなかったことによる不利益も被らないことを説明した。なお、提出した質問紙は個人を特定することができないため、提出後は返却・撤回できないこと、回答の内容は統計的に処理し、研究発表に用いることも付け加え説明した。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 歯をみがく頻度

「平均して1日に何回歯をみがくか」については、「1日2回みがく」が34名（52.3%）、「1日3回以上みがく」が28名（43.1%）であった（図1）。

#### 2. 歯や口の清掃状況

複数選択回答形式にて調査を行った。回答したものの全員が歯ブラシを使用していた。2名が無回答だったため有効回答数は63である。歯ブラシ以外に使用する用具は、「デンタルフロス」が20名（31.7%）、「歯間ブラシ」が11名（17.5%）、「舌の清掃用具」が10名（15.9%）であった（図2）。歯ブラシのみ使用している学生は1年生23名（57.5%）、2年生9名（39.1%）であり、1年生は約40%、2年生は約60%の学生が歯ブラシとその他の用具を組み合わせ使用していた。

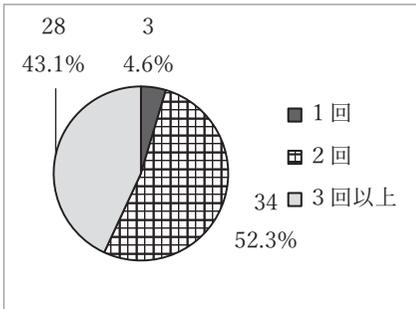


図1 歯をみがく回数

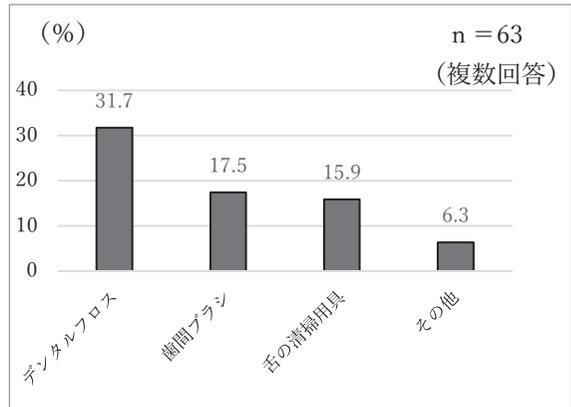


図2 歯をみがくときに使う道具

#### 3. 歯や口の状態

「歯や口の状態で気になるところがあるか」については、「気になるところがある」が29名（44.6%）、「気になるところがない」が36名（55.4%）であった（図3）。

「気になるところがある」と回答した学生にさらに、複数選択回答形式で調査を行った。「歯がしみる」は10名（34.5%）、「歯ぐきから出血する」は8名（27.6%）であった（図4）。「その他」を選択した学生は14名（48.3%）で、その内容

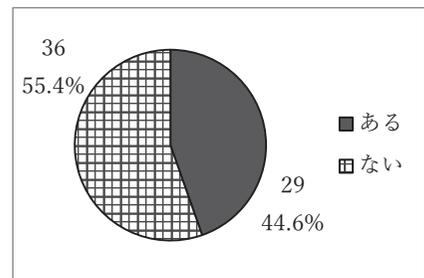


図3 歯や口の中で気になるところの有無

を自由記述方式で調査したところ、「歯並び」と記述したものが最も多く次いで「歯の色」となった（表1）。

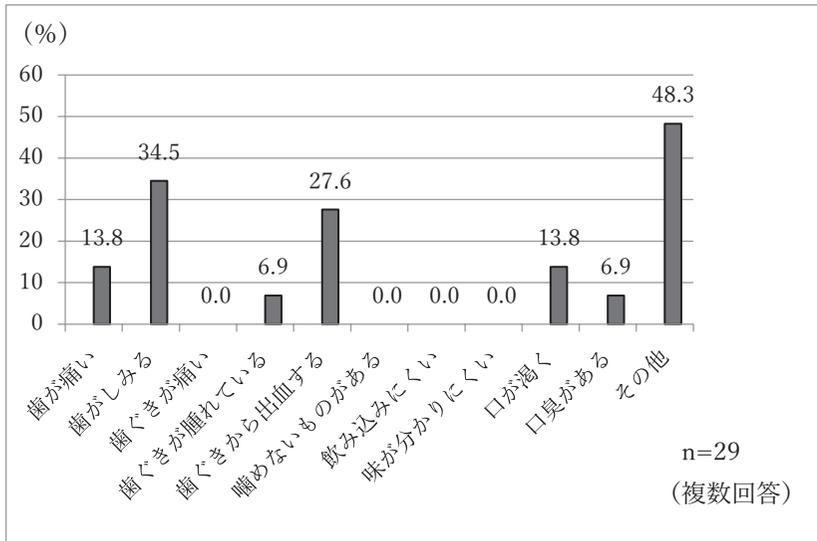


図4 歯や口の中で気になるところ

表1 歯や口の気になるところ（その他）

	(人)
歯並びが悪い	8
歯の色	5
矯正中の歯肉の状態	1
頬粘膜が少し腫れている	1
智歯が萌出途中で痛みがある	1

#### 4. フッ化物応用の経験の有無

「フッ化物応用の経験の有無」について、「経験がある」が49名（75.4%）、「経験がない」が4名（6.2%）、「わからない」が12名（18.5%）であった（図5）。

「経験がある」と回答した者に対し、さらにフッ化物応用の方法を複数選択回答形式で調査した。「フッ化物塗布（歯科医院や保健センターで実施するもの）」が31名（63.3%）、「フッ化物洗口（うがい）」が16名（32.7%）、「歯磨剤（フッ素入りの歯みがき粉）」が35名（71.4%）であった（図6）。

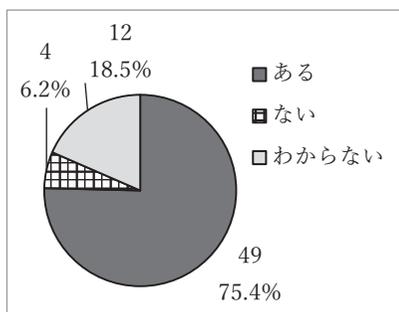


図5 フッ化物応用の経験の有無

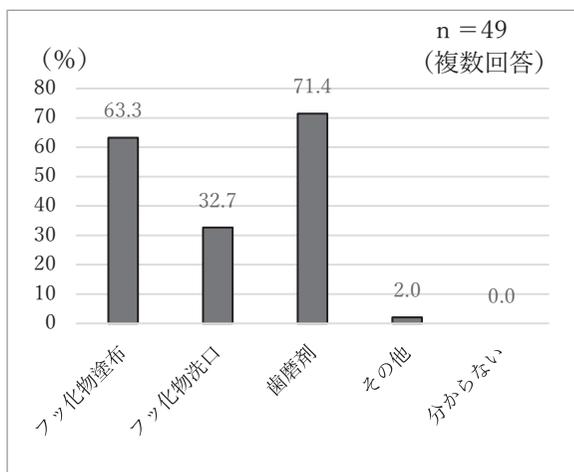


図6 フッ化物応用の方法

### 5. かかりつけ歯科医と定期健診

歯科保健行動に対する質問として以下の質問を行った。

「かかりつけの歯科医院があるか」については、「はい」が48名（73.8%）、「いいえ」が13名（20.0%）であった（図7）。

「定期健診の目的で歯科医院を受診しているか」については、「はい」が19名（29.2%）、「いいえ」が40名（61.5%）であった（図8）。

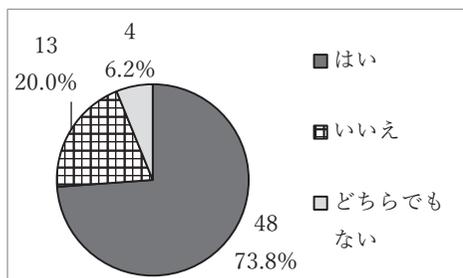


図7 かかりつけ歯科医院の有無

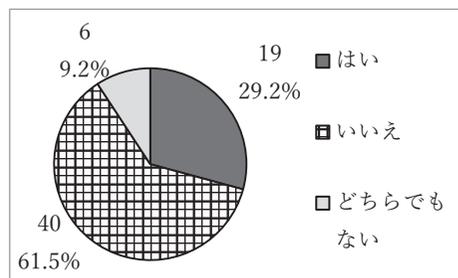


図8 定期健診目的で歯科医院へ行くか

### 6. 歯みがきに対する意識

「自分が使用する歯ブラシは自分で選んでいるか（直接買わなくても良い）」については、「はい」が44名（67.7%）、「いいえ」が20名（30.8%）であった（図9）。「歯周病やむし歯を意識して歯をみがいているか」については、「はい」が58名（89.2%）であった（図10）。

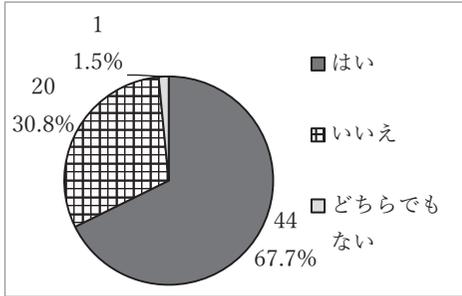


図9 歯ブラシを自分で選ぶか

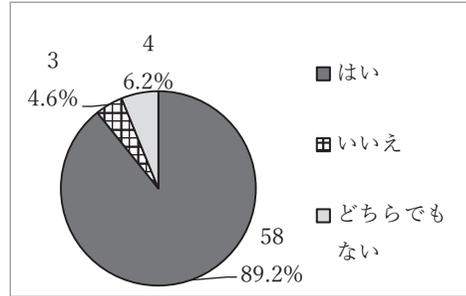


図10 歯周病やむし歯を意識して歯をみがくか

### 7. 歯科保健に関する関心

「歯科保健に関連するニュースに関心があるか」については、「はい」が38名（58.5%）、「いいえ」が14名（21.5%）であった（図11）。

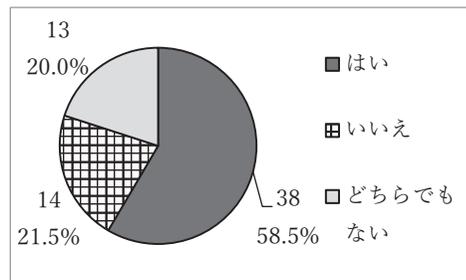


図11 歯科保健ニュースに関心があるか

## IV. 考察

「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>の年齢区分15～24歳の結果と本調査の結果を比較・考察した。

### 1. 歯をみがく頻度

「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>では15～24歳で「1日1回みがく」が13.8%、「1日2回みがく」が58.4%、「3回以上みがく」が21.9%であった。（表2）。それに対して本調査では「1日1回みがく」が3名（4.6%）、「1日2回みがく」が34名（52.3%）、「1日3回以上みがく」が28名（43.1%）であった（図1）。歯をみがく回数は「2回」「3回」いずれも本調査が上回っており、「3回以上みがく」割合は約20%上回っていた。また、本調査では「歯周病やむし歯を意識して歯をみがいているか」を併せて調査しているが、58名（89.2%）が「はい」と回答した（図10）。このことから、歯科疾患を意識して口腔清掃を行っていることが歯みがきの回数にも現れていると考えられる。

表 2 歯ブラシの使用状況、性・年齢階級別（1歳以上）

年齢階級 Age Group	被調査者数 Number of subjects	毎日みがく者 Brushing daily				ときどき みがく者 Brushing sometimes	割合(%) Percentage	
		総数 Total	1回	2回	3回以上		みがかない者 No brushing	不詳 No brushing
			Once	Twice	Three or more			
<b>総数 Total</b>	<b>6,278</b>	<b>95.3</b>	<b>18.3</b>	<b>49.8</b>	<b>27.3</b>	<b>1.5</b>	<b>0.4</b>	<b>2.7</b>
1～4	201	95.0	27.4	46.8	20.9	4.5	-	0.5
5～14	561	97.9	19.1	53.1	31.4	1.6	0.2	0.4
15～24	392	96.2	13.8	58.4	21.9	3.1	0.3	0.5
25～34	450	97.8	9.9	51.6	28.7	1.8	-	0.4
35～44	794	98.6	13.8	55.2	30.1	1.0	0.1	0.3
45～54	766	98.2	14.4	51.2	29.6	1.2	-	0.7
55～64	924	98.2	15.0	52.9	25.4	0.9	0.3	0.6
65～74	1,219	94.6	32.0	47.3	27.7	1.1	0.8	3.4
75～84	748	88.2	67.7	40.4	27.7	1.6	0.9	9.2
85～	223	77.6	29.1	34.1	14.3	3.6	1.8	17.0

## 2. 歯や口の清掃状況

「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>では、年齢が上がるほど歯ブラシ以外の清掃用具を使用する割合が高くなっている。「歯ブラシのみで清掃」を行っている者は15～19歳女性で64.5%、20～24歳女性で59.4%であった。「デンタルフロスや歯間ブラシを用いた歯間部清掃を行っている者」が、15～19歳女性で16.4%、20～24歳女性で22.9%であった。「舌清掃を行っている者」が15～19歳女性で19.1%、20～24歳女性で24.0%であった。

本調査で、歯ブラシ以外に使用する用具は、「デンタルフロス」が20名（31.7%）、「歯間ブラシ」が11名（17.5%）、「舌の清掃用具」が10名（15.9%）であった（図2）。歯ブラシのみ使用している学生は1年生23名（57.5%）、2年生9名（39.1%）であり、1年生は約40%、2年生は約60%の学生が歯ブラシとその他の用具を組み合わせ使用していた。

「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>の同年代よりも高値で歯間部清掃や舌清掃を実施していることから、歯科衛生について学習し、意識が高くなっているため、歯ブラシと補助的な清掃用具を組み合わせ使用していると考えられる。さらに1年生よりも2年生の方が歯ブラシに補助用具を加えた口腔清掃をしており、より意識が高いと言える。

また、本調査では「自分が使用する歯ブラシは自分で選んでいるか（直接買わなくても良い）」を併せて調査しているが、「はい」が44名（67.7%）、「いいえ」が20名（30.8%）であった（図9）。約70%は自分で使用する歯ブラシを選んでおり、みがければ何でもよいわけではなく、清掃効果やみがきやすさ、好みなど自分の口腔内に使用する歯ブラシは自分で選ぶ意識の高さを表していると言える。

### 3. 歯や口の状態

「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>では、年齢階級が上がるとともに「気になるところがある」が高値を示している。15～24歳では、「気になるところがある」者が24.1%で、「気になるところがない」が75.9%であった。「気になるところ」として、「歯が痛い、しみる」が13.6%、「歯ぐきが痛い、はれている、出血がある」が4.6%、「噛めないものがある」が0%、「飲み込みにくい」が0%、「味が分かりにくい」が0%、「口がかわく」が0.8%、「口臭がある」が3.3%、その他が6.2%であった（表3）。

本調査においては、歯や口の状態で「気になるところがある」が29名（44.6%）、「気になるところがない」が36名（55.4%）であった（図3）。「気になるところ」として「歯が痛い」が4名（13.8%）、「歯がしみる」が10名（34.5%）、「歯ぐきが痛い」が0名（0.0%）、「歯ぐきが腫れている」が2名（6.9%）、「歯ぐきから出血する」が8名（27.6%）、「噛めないものがある」が0名（0.0%）、「飲み込みにくい」が0名（0.0%）、「味が分かりにくい」が0名（0.0%）、「口が渴く」が4名（13.8%）、「その他」が14名（48.3%）であった（図4）。その他の内容は、「歯並び」と記述したものが最も多く次いで「歯の色」であった（表1）。

「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>の結果と比較して「気になるところがある」と回答した学生が多いことは、歯・口腔に対する興味・意識が高いことで問題意識が働き、高い数値になったと考える。また、その他として「歯並び」や「歯の色」を気にしていることから、口腔に対する審美的意識・興味が高いためと思われる。「噛めないものがある」「飲み込みにくい」「味が分かりにくい」については差異がなかった。これらの問題は年齢的な要素に関係があると考

表 3 歯や口の状態、年齢系級別

年齢階級 Age Group	被調査者数 Number of subjects	歯や口の状態について気になるところ									
		ない None	総数 <sup>注2</sup> Total	ある <sup>注1</sup>							
				歯が痛い、しみる Toothache	歯ぐきが痛い、はれている、出血がある Sore, swollen, and bleeding gums	噛めないものがある Difficulty chewing	飲み込みにくい Difficulty swallowing	味が分かりにくい Taste worse	口がかわく Dry mouth	口臭がある Bad breath	その他 Others
<b>総数 Total</b>	<b>6,216</b>	<b>59.0</b>	<b>41.0</b>	<b>12.2</b>	<b>11.3</b>	<b>7.0</b>	<b>1.3</b>	<b>1.1</b>	<b>8.5</b>	<b>9.6</b>	<b>8.2</b>
1～4	200	88.0	12.0	0.5	1.0	-	-	-	-	3.0	8.0
5～14	555	83.8	16.2	4.0	2.5	0.4	-	-	0.7	2.5	7.9
15～24	390	75.9	24.1	13.6	4.6	-	-	-	0.8	3.3	6.2
25～34	448	56.3	43.8	20.1	13.8	0.7	-	0.2	4.9	6.3	9.8
35～44	788	56.1	43.9	17.9	13.3	1.6	1.4	0.5	8.0	10.9	7.9
45～54	758	58.2	41.8	17.9	13.9	2.4	0.7	-	6.7	9.5	6.9
55～64	920	48.3	51.7	15.7	17.3	8.5	1.3	1.0	10.2	14.7	9.1
65～74	1,207	54.8	45.2	9.8	10.4	12.5	1.7	2.0	10.9	13.0	7.5
75～84	732	52.3	47.7	5.9	12.6	16.3	2.9	2.9	16.9	9.6	9.4
85～	218	49.1	50.9	4.6	9.6	23.9	5.5	3.7	17.4	7.8	11.0

注1) 複数回答可

注2) いずれか1つでもある者

える。

#### 4. フッ化物応用の経験の有無

「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>では1～14歳に対して調査を行っている。総数で「フッ化物応用の経験がある」が83.2%、「経験がない」が8.4%、「わからない」が8.4%となっている。

フッ化物応用の経験がある者の内訳は、「フッ化物塗布」が62.5%、「フッ化物洗口」が13.4%、「フッ化物配合歯磨剤使用」が62.3%となっている。14歳までの回答では「フッ化物応用の経験がある」が52.3%、「経験がない」が4.8%、「わからない」が42.9%となっている。14歳の「フッ化物応用の経験がある」の内訳は、「フッ化物塗布」が33.3%、「フッ化物洗口」が9.5%、「フッ化物配合歯磨剤使用」が42.9%となっている。(表4)

本調査による結果は、「フッ化物応用の経験がある」が49名(75.4%)、「経験がない」が4名(6.2%)、「わからない」が12名(18.5%)であった(図5)。「経験がある」と回答した学生のうち「フッ化物塗布(歯科医院や保健センターで実施するもの)」が31名(63.3%)、「フッ化物洗口(うがい)」が16名(32.7%)、「歯磨剤(フッ素入りの歯みがき粉)」が35名(71.4%)であった(図6)。

歯磨剤の使用率が高い理由としては、家庭で手軽に利用できること、種類が豊富で比較的安価なことが考えられる。市販の歯磨剤に配合されているフッ化物は、モノフルオロリン酸ナトリウム(MFPO)、フッ化ナトリウム、フッ化第一スズであり、使用目的や対象者に合わせた

表4 フッ化物応用の経験の有無(1～14歳)

年齢 (歳) Age	被験者数 (人) Subject #1	人数(人) Number of persons						割合(%) Percentage					
		フッ化物応用の経験がある者 <sup>#2</sup>				フッ化物応用の経験がない None	わからない Unknown	フッ化物応用の経験がある者 <sup>#2</sup>				フッ化物応用の経験がない None	わからない Unknown
		フッ化物塗布 Topical fluoride application	フッ化物洗口 Fluoride mouth rinses	フッ化物配合歯磨剤の使用 Usage of fluoride toothpaste	その他 Other			フッ化物塗布 Topical fluoride application	フッ化物洗口 Fluoride mouth rinses	フッ化物配合歯磨剤の使用 Usage of fluoride toothpaste	その他 Other		
<b>総数 Total</b>	<b>440</b>	<b>275</b>	<b>59</b>	<b>274</b>	<b>2</b>	<b>37</b>	<b>37</b>	<b>62.5</b>	<b>13.4</b>	<b>62.3</b>	<b>0.5</b>	<b>8.4</b>	<b>8.4</b>
1	37	15	0	9	1	15	2	40.5	0.0	24.3	2.7	40.5	5.4
2	27	16	0	16	1	6	1	59.3	0.0	59.3	3.7	22.2	3.7
3	35	20	1	22	0	6	0	57.1	2.9	62.9	0.0	17.1	0.0
4	25	15	0	15	0	2	2	60.0	0.0	60.0	0.0	8.0	8.0
5	41	37	6	31	0	0	1	90.2	14.6	75.6	0.0	0.0	2.4
6	44	27	5	29	0	2	4	61.4	11.4	65.9	0.0	4.5	9.1
7	34	25	5	25	0	1	3	73.5	14.7	73.5	0.0	2.9	8.8
8	43	33	8	25	0	1	3	76.7	18.6	58.1	0.0	2.3	7.0
9	32	21	7	20	0	0	3	65.6	21.9	62.5	0.0	0.0	9.4
10	22	13	6	20	0	0	1	59.1	27.3	90.9	0.0	0.0	4.5
11	32	18	9	21	0	2	2	56.3	28.1	65.6	0.0	6.3	6.3
12	29	16	7	19	0	1	5	55.2	24.1	65.5	0.0	3.4	17.2
13	18	12	3	13	0	0	1	66.7	16.7	72.2	0.0	0.0	5.6
14	21	7	2	9	0	1	9	33.3	9.5	42.9	0.0	4.8	42.9

注)複数回答。口腔診査受診者のみ。

形状（ペースト状、ジェル状、泡状、液体）で販売されているため、幼児から高齢者まで利用しやすくなっている。<sup>5)</sup>

また、歯磨剤に配合できるフッ化物のイオン濃度は従来1000ppm（0.10%）であったが、配合濃度が引き上げられ、平成29年（2017年）より1500ppm（0.15%）まで配合できることが厚生労働省で承認された。このことは、より安全に家庭でフッ化物を利用できることを意味していると考えられる。

フッ化物塗布については、「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>と本調査では差異がなかった。

フッ化物塗布が高値となっているのは、フッ化物塗布によるむし歯予防効果の考えが浸透し、市区町村自治体による集団フッ化物塗布の応用や個別に歯科医院を受診しているためと考えられる。<sup>6)</sup>

フッ化物洗口については、「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>と比べて本調査が約20%高くなっている。本調査ではフッ化物洗口の経験の有無のみを調査しており、経験した時期（年齢）や場所（施設等）、また対象者（有効回答の65名）の住所地についての調査は行なわなかった。アンケート回答者の個別の住所地は特定できないが、アンケートを配布した70名のうち、埼玉県在住が32名（45.7%）、東京都在住が20名（28.6%）、千葉県在住が9名（12.9%）、新潟県在住が2名（2.9%）、その他の県が7名（10%）となっている。

日本フッ化物むし歯予防協会<sup>7)</sup>の平成24年（2012年）データによると、フッ化物洗口の市町村実施率は埼玉県が47.6%、千葉県が25.9%、東京都が8.1%、新潟県が93.3%であり、平成24年（2012年）は調査対象者が小学校高学年に在籍した年である。本調査では対象者の住所地については調査していないが、埼玉県や新潟県の市町村実施率の高さと本調査対象者のフッ化物洗口の経験の数値は関連があるのではないかと考える。

また、対象者の矯正治療の経験の有無とその際のフッ化物洗口実施の有無も関係があると考えられるが、本調査ではこれについても調査していないため、関連を引き続き調査していきたい。

## 5. かかりつけ歯科医と定期健診

かかりつけ歯科医とは、安全・安心な歯科医療の提供に加え、地域住民の口腔機能の維持・向上を生涯に亘って担い、その責任を果たすことができる歯科医師である。

「平成28年国民健康・栄養調査」<sup>8)</sup>では「過去1年間に歯科検診を受けた割合」を調査しており、20～29歳の結果は43.3%であった。また、公益社団法人日本歯科医師会の歯科医療に関する一般生活者意識調査平成28年（2016年）<sup>9)</sup>でも「1年以内に歯科検（健）診を受けている人」は20代で39.3%であった。

本調査では29.2%と低い結果となった。これは設問に過去1年という受診期間を示さなかったため、質問に具体性がなく、対象者によって受診期間のとらえ方が一定でなかったのではないかと考える。また、高等学校までは学校保健安全法と学校保健安全法施行規則に定められているため、毎年の健康診断の項目として歯科健康診断（以下歯科健診）が行われているが、

大学の健康診断では、歯科健診は除いてもよい項目となっているため、実施している大学は少なく、対象者が在籍するM大学短期大学部歯科衛生学科でも、歯科健診は実施されていない。高等学校まで行われている歯科健診は、歯・口腔に問題があれば歯科医院を受診し、問題がなくても定期受診行動につながる動機づけとなっていたのではないかと考える。調査の対象者は、高等学校を卒業し社会人になるまでの端境期の年齢であるため、低い結果になったと考える。

## V. 結 論

本研究は、歯科とかわりを持つ進路を選択した女子短期大学生65名の生活習慣や口腔衛生に対する意識、歯科保健行動は、同年代の人の意識や習慣と比較して高いのではないかと考え、質問紙による調査を実施し「平成28年歯科疾患実態調査」<sup>4)</sup>の結果と比較を行った。

調査対象のM大学短期大学部歯科衛生学科に在籍する学生は、歯をみがくときに「歯周病やむし歯を意識」して口腔清掃を行っていることが、「1日3回以上みがく」歯みがきの回数に現れており、歯ブラシのみでなく、「デンタルフロス」「歯間ブラシ」「舌の清掃用具」など歯ブラシ以外の清掃用具を組み合わせ使用していることから、一般的な同年代の人よりも歯や口腔に対して関心があり、意識が高いといえる。

また、同年代と比較して「歯・口腔内の気になるところのある」学生が多かった。これは口腔内に問題があるというよりは、口腔に対する興味・意識が高いことで問題意識が働き高い数値になったと考える。また、「歯並び」や「歯の色」を気にしている学生が多いことから、口腔に対する審美的意識・興味も高いと言える。

「フッ化物応用の経験」については「フッ化物の塗布（歯科医院や保健センターで実施するもの）」が31名（63.3%）と「歯磨剤（フッ素入りの歯みがき粉）」が35名（71.4%）となっており、むし歯予防の手段として浸透していることが伺える。

歯科保健行動として「かかりつけ歯科医院の有無」を調査したが、48名（73.8%）の学生に「かかりつけ歯科医院」があるものの、「定期健診目的」で歯科医院へ行っているのは19名（29.2%）である。口腔に興味関心はあるが、実際に口腔内に問題がなければ、歯科医院を受診はしないことが推察できる。

今回、本調査では口腔診査による口腔内のデータを回収していないため、今後は口腔診査とアンケートを組み合わせ検討する必要があると考える。

## 【参考文献】

- 1) 次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会、「健康日本21（第2次）の推進に関する参考資料」厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会 2012.  
[https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/kenkounippon21\\_02.pdf](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/kenkounippon21_02.pdf)（アクセス日：2020/9/13）

- 2) 厚生労働省. 歯科口腔保健関連情報. 「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」中間評価報告. 2018.  
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000197026.pdf> (アクセス日: 2020/9/13)
- 3) 大島克郎「わが国の歯・口腔状況を知る」歯界展望 Vol.129 No.2 2017-2
- 4) 厚生労働省. 歯科口腔保健関連情報. 「平成28年歯科疾患実態調査結果の概要」平成28年(2017).  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/62-17.html> (アクセス日: 2020/9/13)
- 5) 麻賀多美代, 岩崎典子, 遠藤圭子, 近藤いさを, 境 信, 佐野孝子, 玉木裕子, 波多江道子, 堀内由子, 松田裕子. 歯ブラシ辞典ー使い方から介護用品までなんでもわかるー. 学健書院. 2009年
- 6) 「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」研究班. 「地方自治体におけるフッ化物利用に関する全国実態調査報告書」平成17年度厚生労働科学研究 2005.  
[https://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/contents/F\\_Use\\_LocalGov\\_Report\\_2006.pdf](https://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/contents/F_Use_LocalGov_Report_2006.pdf) (アクセス日: 2020/10/1)
- 7) 特定非営利活動法人日本フッ化物むし歯予防協会 (NPO 日F). フッ化物データ集「2014年フッ化物洗口伊確定値」.  
<http://www.nponitif.jp/> (アクセス日: 2020/11/18)
- 8) 厚生労働省. 栄養・食育対策. 「平成28年国民健康・栄養調査結果の概要」平成28年(2017).  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000177189.html> (アクセス日: 2020/11/18)
- 9) 公益社団法人日本歯科医師会. 「【歯科医療に関する一般生活者意識調査】67%が「かかりつけ歯科医」ありー全国の10～70代の男女10,000人への調査ー」  
[https://www.jda.or.jp/pdf/DentalMedicalAwarenessSurvey\\_h28.pdf](https://www.jda.or.jp/pdf/DentalMedicalAwarenessSurvey_h28.pdf) (アクセス日: 2020/11/18)

学生の口腔衛生に関連した生活習慣と意識調査

<p><b>【質問項目】</b></p> <p>問1. ①かかたりつけ歯科医院はありますか。(口腔内に問題が起きたときにまず受診する決まった歯科医院)</p> <p>②定期健診の目的で歯科医院を受診していますか。(歯に問題がなくても定期的に歯科受診するか)</p> <p>③歯周病やむし歯を意識して歯を磨いていますか。</p> <p>④自分が使用する歯ブラシは自分で選んでいますか。(直接買わなくても良い)</p> <p>⑤電動歯ブラシを使用していますか。</p> <p>⑥歯科保健に関連するニュースに関心がありますか。</p> <p>問2. 歯磨きの習慣について回答してください。</p> <p>問3. 平均して1日に何回歯をみがきますか。</p> <p>問4. 歯や口の状態について回答してください。口の状態で気になるところがありますか。</p>	<p>問5. 設問4で「ある」と答えたら、歯や口の状態で気になるところはどれですか。(複数回答可)</p> <p>問6. 設問5の「その他」の内容を記入してください。</p> <p>問7. 歯を磨くときに使う用具について回答してください。(複数回答可)</p> <p>問8. 設問7の「その他」の内容を記入してください。</p> <p>問9. むし歯予防のため、フッ素(フッ化物)を使用したことはありますか。あるいは使っていますか。</p> <p>問10. 設問9で「ある」と答えたら、どんな方法でフッ素(フッ化物)を使用しましたか。あるいは使っていますか。(複数回答可)</p> <p>問11. 設問10の「その他」の内容を記入してください。</p>
<p><input type="radio"/> はい</p> <p><input type="radio"/> いいえ</p> <p><input type="radio"/> どちらでもない</p> <p><input type="radio"/> はい</p> <p><input type="radio"/> いいえ</p> <p><input type="radio"/> どちらでもない</p> <p><input type="radio"/> はい</p> <p><input type="radio"/> いいえ</p> <p><input type="radio"/> どちらでもない</p> <p><input type="radio"/> はい</p> <p><input type="radio"/> いいえ</p> <p><input type="radio"/> どちらでもない</p> <p><input type="radio"/> はい</p> <p><input type="radio"/> いいえ</p> <p><input type="radio"/> どちらでもない</p> <p><input type="radio"/> みがかない</p> <p><input type="radio"/> 時々みがく</p> <p><input type="radio"/> 毎日みがく⇒問3に進んでください</p> <p><input type="radio"/> 1回</p> <p><input type="radio"/> 2回</p> <p><input type="radio"/> 3回以上</p> <p><input type="radio"/> ない⇒問7に進んでください</p> <p><input type="radio"/> ある⇒問8に進んでください</p>	<p><input type="radio"/> 歯が痛い</p> <p><input type="radio"/> 歯がしみる</p> <p><input type="radio"/> 歯ぐき痛い</p> <p><input type="radio"/> 歯ぐきがはれている</p> <p><input type="radio"/> 歯ぐきから出血する</p> <p><input type="radio"/> 嘔(か)めないものがある</p> <p><input type="radio"/> 飲み込みにくい</p> <p><input type="radio"/> 味がわかりにくい</p> <p><input type="radio"/> 口がかわく</p> <p><input type="radio"/> 口臭がある</p> <p><input type="radio"/> その他⇒問6.に進んでください</p> <p><input type="radio"/> 歯ブラシ</p> <p><input type="radio"/> デンタルフロス</p> <p><input type="radio"/> 歯間ブラシ</p> <p><input type="radio"/> 舌の清掃用具</p> <p><input type="radio"/> その他⇒問8.に進んでください</p> <p><input type="radio"/> ある⇒問10.に進んでください</p> <p><input type="radio"/> ない</p> <p><input type="radio"/> わからない</p> <p><input type="radio"/> フッ化物塗布 (歯科医院や保健センターで実施)</p> <p><input type="radio"/> フッ化物洗口(うがい)</p> <p><input type="radio"/> 歯磨剤(フッ素入りの歯磨き粉)</p> <p><input type="radio"/> その他⇒問11.に進んでください</p> <p><input type="radio"/> わからない</p>